

企業内実習アンケート(学生用)

職種・形態・学年	職種:設計、形態:短期集中型、学年:1年生
実習先	いるか設計集団、アトリエフォルム、瀬戸本設計事務所 Y+Mdesign office、たしる工房、構造デザイン、小西建設設計事務所
実習期間	8月7日～9月25日 合計10～23日 (80～184時間)
実習内容	設計事務所での仕事体験
実習人数	1人～5人

1 実習の成果

(1) 実習に参加して、得たことを上位から順に5点、箇条書きにしてください。

(1) 設計事務所のイメージ

- ①設計事務所でどんな仕事をするのか、どんな雰囲気なのかを実感できた。
- ②設計事務所の仕事の1日の流れを知ることができた。
- ③設計事務所の忙しさが分かった。
- ④設計事務所で仕事をするなら、中途半端な気持ちではできないことを知った。
- ⑤想像とは違う現実を知った。

(2) 仕事をする上での態度

- ①施主や管理人などと話をするときには、簡単でもいいから話をメモすることを学んだ。
- ②一緒に仕事する人たちとコミュニケーションをとらないといけないことを知った。
- ③現場に行き、コミュニケーションをとることの大切さを知った。
- ④設計するにあたっては、型にとらわれ過ぎることなく、自分がやってみたいと思ったことを形にしてみることを学んだ。
- ⑤すぐに聞くのではなく、自分で考えようとする態度を学んだ。
- ⑥礼儀やマナーを教えてもらった。

(3) 知識・技術

- ①造形での見栄えの大切さと、材料の選定の大切さを学んだ。
- ②これからの図面では、手書きよりもC A Dのほうが正確であることを知った。
- ③J W・C A D操作能力が向上した。

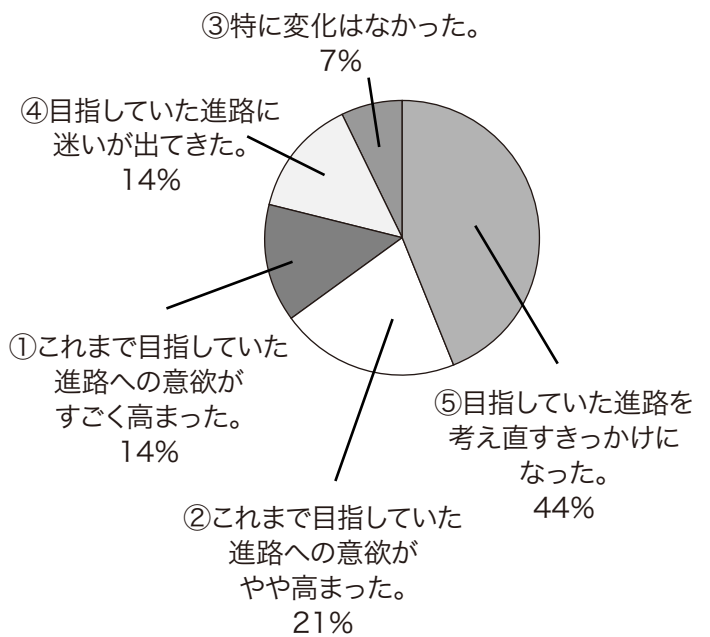
- ④ J W ・ C A D で螺旋階段の描き方が分かった。
- ⑤ 今の時代、いかに C A D 技術が必要か実感した。
- ⑥ C A D で図面を描く時、どのコマンドを使えばいいのかが、判断できるようになった。
- ⑦ 模型の重要性を学んだ。
- ⑧ 模型やデザインなどの表現の仕方を学んだ。
- ⑨ 模型を作成するのが楽しく思えるようになった。
- ⑩ 開口部を空けるうまさを学んだ。
- ⑪ 家具のサイズの決め方を学んだ。
- ⑫ イラストレーターやフォトショップの使い方、デッサンの描き方が分かった。
- ⑬ 学校で使っていない造形の道具でも、便利なものがあることを知った。
- ⑭ 学校で学んだことが生かされると知った。

(4) その他

- ① 独立して設計事務所を運営していく難しさを知った。
- ② 建築士になるには、これから学習や仕事をどのように進めていけばよいのかを教えてもらった。
- ③ 精神的に鍛えられた。

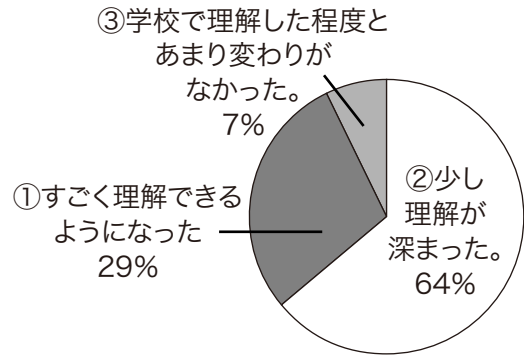
(2) 実習に参加して、自分の進路への考え方はどう変わりましたか。

項目	人数	割合
①これまで目指していた進路への意欲がすごく高まった。	2	14%
②これまで目指していた進路への意欲がやや高まった。	3	21%
③特に変化はなかった。	1	7%
④目指していた進路に迷いが出てきた。	2	14%
⑤目指していた進路を考え直すきっかけになった。	6	44%



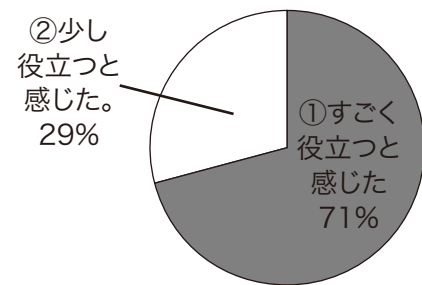
(3) 実際の現場で実習したことにより、これまでに学校で学んだことが、より理解できるようになりましたか。

項目	人数	割合
①すごく理解できるようになった	4	29%
②少し理解が深まった。	9	64%
③学校で理解した程度とあまり変わりがなかった。	1	7%



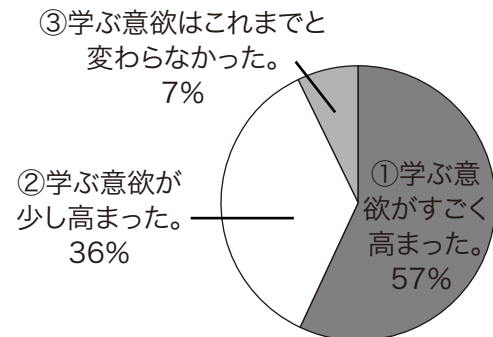
(4) 実際の現場での実習は、これからの学習に役立つそうですか。

項目	人数	割合
①すごく役立つと感じた。	10	71%
②少し役立つと感じた。	4	29%
③役立つとは、あまり思わない。	0	0%



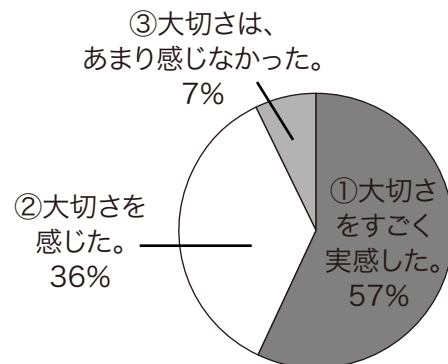
(5) 実習に参加したことにより、もっといろいろなことを広く・深く学びたいという、意欲が高まりましたか。

項目	人数	割合
①学ぶ意欲がすごく高まった。	8	57%
②学ぶ意欲が少し高まった。	5	36%
③学ぶ意欲はこれまでと変わらなかった。	1	7%



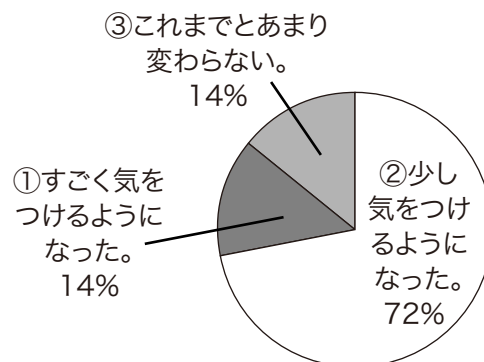
(6) 実習に参加したことにより、礼儀や挨拶・マナーなどの大切さを感じましたか。

選択内容	回答人数	回答率(%)
①大切さをすごく実感した。	8	57%
②大切さを感じた。	5	36%
③大切さは、あまり感じなかった。	1	7%



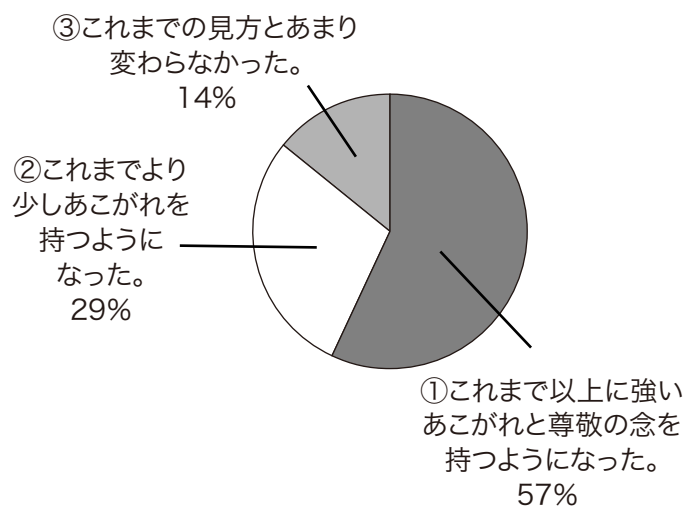
(7) 実習に参加をしたことにより、日常生活においても礼儀や挨拶・マナーなどに気をつけるようになりましたか。

項目	人数	割合
①すごく気をつけるようになった。	2	14%
②少し気をつけるようになった。	10	72%
③これまでとあまり変わらない。	2	14%



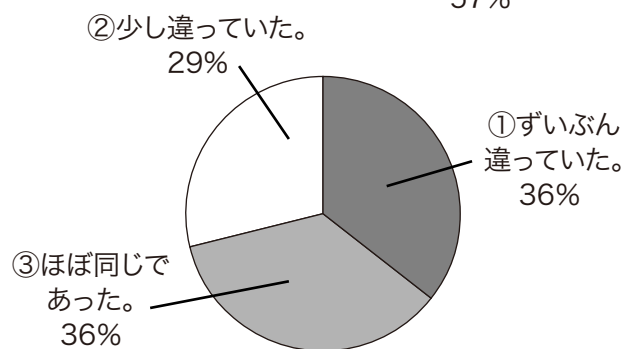
(8) 実習に参加したことにより、職業人(職人)の生き方に対する見方が変わりましたか。

項目	人数	割合
①これまで以上に強いあこがれと尊敬の念を持つようになった。	8	57%
②これまでより少しあこがれを持つようになった。	4	29%
③これまでの見方とあまり変わらなかった。	2	14%



(9) 事前に考えていた職場・現場のイメージと実際は違っていましたか。

項目	人数	割合
①ずいぶん違っていた。	5	36%
②少し違っていた。	4	29%
③ほぼ同じであった。	5	36%

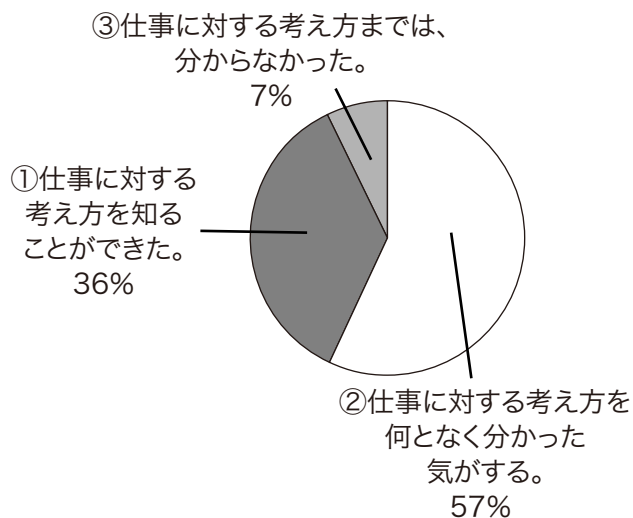


(10) 前の問い(9)で「①ずいぶん違っていた」、「②少し違っていた」と回答した方にお聞きます。
 どんな点が違っていましたか。箇条書きにしてください。

- ①設計事務所では、もっと多人数で意見を出し合いながら仕事するなど、活発な職場だと思っていたが、個人で仕事を受け、淡々と作業していたこと。
- ②思っていたより、地味な仕事だった。
- ③基本の作業がCADを描き続けることだったこと。
- ④実際の仕事は、学校で学ぶことよりも細かいこと。
- ⑤職場の雰囲気があまりピリピリしていなかったこと。
- ⑥担当してくれた方やその他の方々も、フレンドリーで優しかったこと。
- ⑦設計するのに、もっと型にとらわれていると思っていたが、まずは自分がやってみたい形やデザインを作ってみて、そこから考えていくという、仕事の仕方だったこと。
- ⑧社員さんがペアを組んで、別々のことを1社で担当していたこと。
- ⑨図面など市に提出するときの量が予想以上に多かったこと。
- ⑩図面1枚1枚に丁寧に判子を押す作業などもあったこと。
- ⑪市街地の真ん中に会社があると思っていたけれど、人の目に付きにくいところにあった。

(11) 職業人(職人)の仕事に対する考え方が分かりましたか。

項目	人数	割合
①仕事に対する考え方を知ることができた。	5	36%
②仕事に対する考え方を何となく分かった気がする。	8	57%
③仕事に対する考え方までは、分からなかった。	1	7%



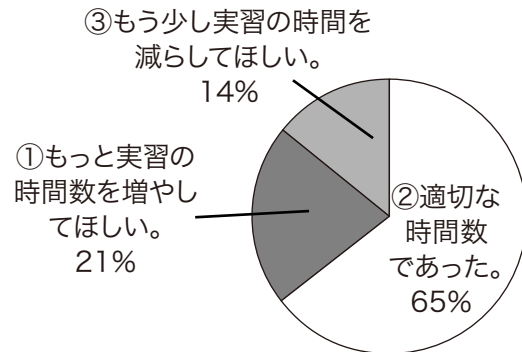
(12) 前の問い(11)で「仕事に対する考え方を知ることができた」と回答した方にお聞きます
 それはどんな考え方ですか。箇条書きにしてください。

- ①お客様のために、最高のものを作りたいという考え方。
- ②自分の仕事だけではなく、他の人の仕事も気にかける責任感のある態度。

2 実習のあり方

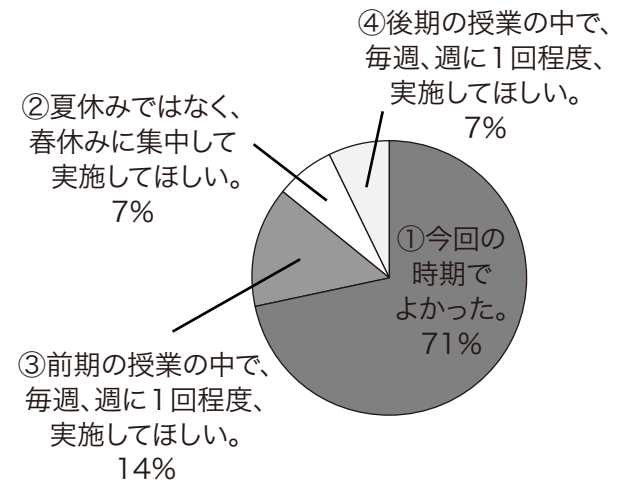
(1) 実習の期間は適切でしたか。

項目	人数	割合
①もっと実習の時間数を増やしてほしい。	3	21%
②適切な時間数であった。	9	65%
③もう少し実習の時間を減らしてほしい。	2	14%



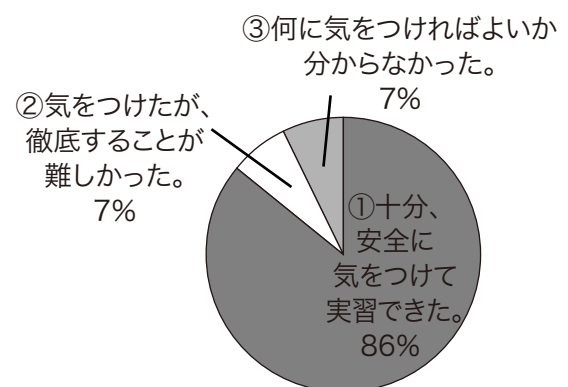
(2) 実習の時期は適切でしたか。

項目	人数	割合
①今回の時期でよかった。	10	71%
②夏休みではなく、春休みに集中して実施してほしい。	1	7%
③前期の授業の中で、毎週、週に1回程度、実施してほしい。	2	14%
④後期の授業の中で、毎週、週に1回程度、実施してほしい。	1	7%



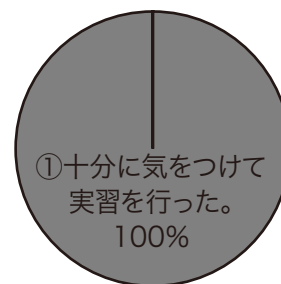
(3) 安全に気をつけて実習を行えましたか。

項目	人数	割合
①十分、安全に気をつけて実習できた。	12	86%
②気をつけたが、徹底することが難しかった。	1	7%
③何に気をつければよいか分からなかった。	1	7%



(4) 守秘義務があることを自覚し、実習が行えましたか。

項目	人数	割合
①十分に気をつけて実習を行った。	14	100%
②あまり自覚せずに実習を行った。	0	0%
③どんなことをしてはいけないのか分からなかった。	0	0%
④守秘義務を違反して、注意を受けた。	0	0%



(5) 実習をさらに充実したものにするために、学校や受入企業にどのような工夫をしてほしいですか。
改善点があれば箇条書きにしてください。

【学校に対して】

- ①どのような設計事務所に行きたいかの希望を聞いてから、振り分けてほしい。(意匠、構造など)
- ②報告書は1週間分ではなく、その期間分あったほうが良いと思う。
- ③実習に行く前に、設計事務所の大まかなイメージを教えてほしい。

【企業に対して】

- ①企業の方と話ができる機会をもう少し増やしてほしい。
- ②もう1週間ぐらい実習期間を増やしてほしい。

アンケート結果(学生:設計)

- (1) 実習に参加して、自分の進路への考え方はどう変わりましたか。という問いに対して、「目指していた進路を考え直すきっかけになった。」43%、「これまで目指していた進路への意欲がやや高まった。」21%であった。
- (2) 実際の現場で実習したことにより、これまでに学校で学んだことが、より理解できるようになりましたか。という問いに対して、「少し理解が深まった。」64%、「すごく理解できるようになった。」29%であった。
- (3) 実際の現場での実習は、これからの学習に役立ちそうですか。という問いに対して、「すごく役立つと感じた。」71%、「少し役立つと感じた。」29%であった。
- (4) 実習に参加したことにより、もっといろんなことを広く・深く学びたいという、意欲が高まりましたか。という問いに対して、「学ぶ意欲がすごく高まった。」57%、「学ぶ意欲が少し高まった。」36%であった。
- (5) 実習に参加したことにより、礼儀や挨拶・マナーなどの大切さを感じましたか。という問いに対して、「すごく実感した。」57%、「大切さを感じた。」36%であった。
- (6) 実習に参加をしたことにより、日常生活においても礼儀や挨拶・マナーなどに気をつけるようになりましたか。という問いに対して、「少し気をつけるようになった。」71%、「すごく気をつけるようになった。」14%の回答であった。
- (7) 実習に参加したことにより、職業人(監督・職人)の生き方に対する見方が変わりましたか。という問いに対して、「これまで以上に強いあこがれと尊敬の念を持つようになった。」57%、「これまでより少しあこがれを持つようになった。」29%であった。
- (8) 職業人(監督・職人)の仕事に対する考え方が分かりましたか。という問いに対して、「何となく分かった気がする。」57%、「知ることができた。」36%であった。
- (9) 安全に気をつけて実習を行えましたか。という問いに対して、「十分、安全に気をつけて実習できた。」86%、「気をつけたが、徹底することが難しかった。」7%であった。
- (10) 守秘義務があることを自覚し、実習が行えましたか。という問いに対して、参加者全員から「十分に気をつけて実習を行った。」と回答が得られた。

【まとめ】

企業内実習を通して、業界内での学生自身が進むべき進路を考えるきっかけの場となる部分や学ぶ事に対して意欲が高まったという結果が得られた。また、礼儀・挨拶・マナーや守秘義務といった大切さを学ぶきっかけとなっている。

このように、実体験の中で多くを学ぶきっかけを得られる企業内実習は、学生にとって有意義なものと考えられる。

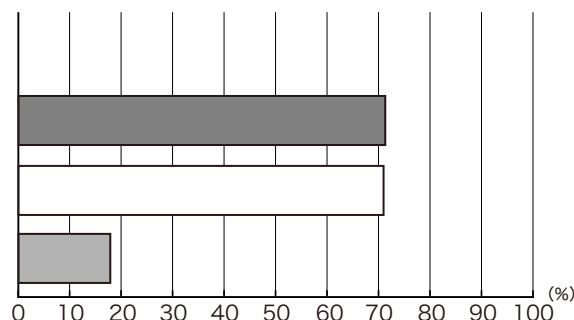
企業内実習アンケート(受入企業用)

職種・形態	職種:設計 形態:短期集中型
実習先	兵庫県建築設計監理協会加盟の17設計事務所
実習期間	8月7日～9月25日 合計10～23日 (80～184時間)
参加学生数	日本工科大学校14名、兵庫県立大学15名、武庫川女子大学6名、 神戸松蔭女子学院大学6名、修成建設専門学校1名
実習人数	1設計事務所 1～5名

1 事前の準備・打ち合わせ等について

(1) 学校が事前に準備しておく必要があるものは、どんなものですか。(複数回答可)

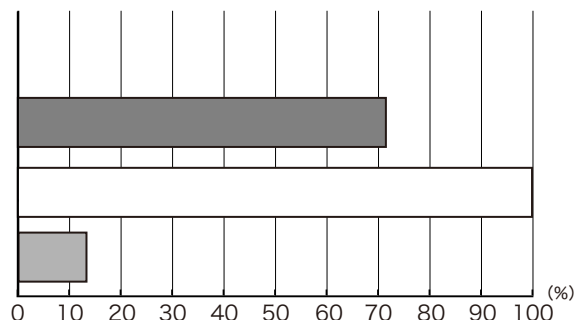
項目	人数	割合
①学生の自宅住所や連絡先を書いた名簿	12	71%
②学生の仕事や将来に関する考え方を書いた作文	12	71%
③その他、必要と思われるもの	3	18%



- ・学校で学んだ内容や、取り組んでいる内容などの分かる資料がほしい。
- ・CAD操作経験の有無と学習期間。
- ・体験してみたい実習内容を書いたもの。

(2) 学校が事前に指導する必要があることは、どんなことですか。(複数回答可)

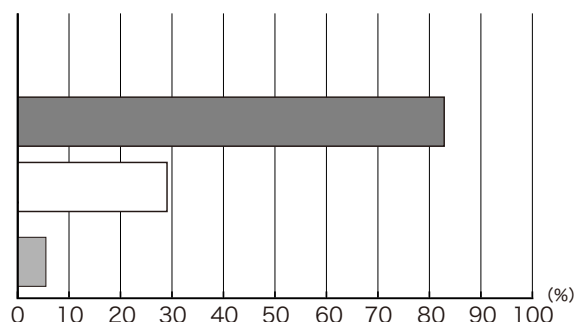
項目	人数	割合
①安全に関する知識と注意事項	12	71%
②守秘義務に関する知識と注意事項	17	100%
③その他、必要と思われるもの	2	12%



- ・礼儀作法
- ・企業に参加すること、社会に参加することの責任を取るべき態度。

(3) 学校と事前に打ち合わせておく必要があるものは、
 どんなことですか。(複数回答可)

項目	人数	割合
①学生が怪我、病気になったときの対応方法	14	82%
②学生の学校での様子、個性など	5	29%
③その他、必要と思われるもの	1	6%

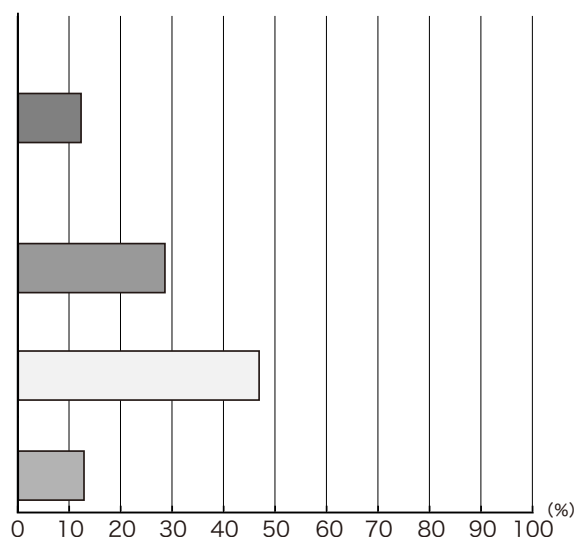


・通勤中や勤務中に発生する可能性がある事故などの対処や責任問題。

2 企業内実習を円滑に行うにあたっての学生の知識や障害について

(1) 実習を行う学生は、どの程度の建設の知識が必要
 ですか。(1つ選択)

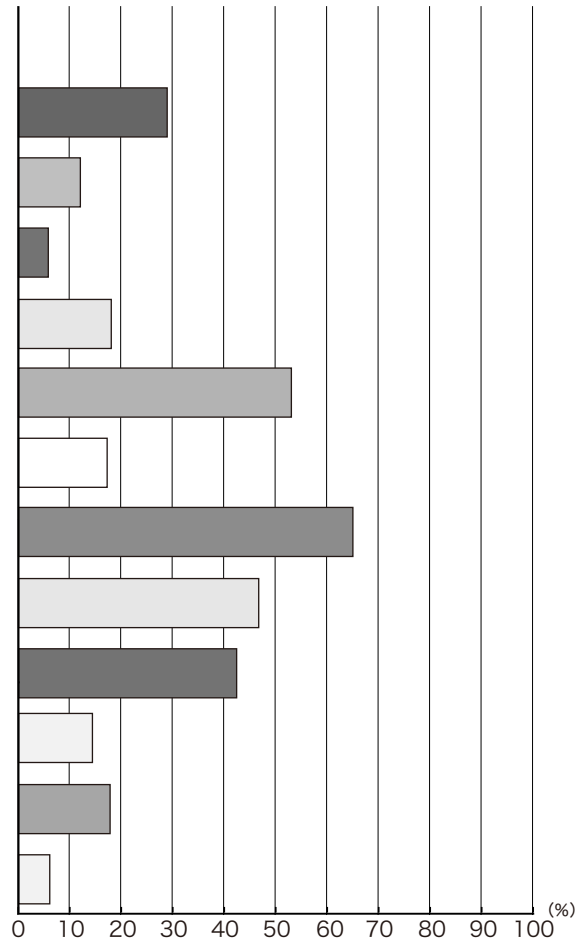
項目	人数	割合
①実習を行う内容について、学校で学んでおく必要がある。	2	12%
②実習を行う内容について、できれば学校で学んでおいたほうがよい。	0	0%
③基本的なことが理解できていれば、実習で行う内容を学校で学んでいなくてもよい。	5	29%
④実習で行うことと、学校で学ぶことは、直接、結びつかなくても、将来の全般的な資質・能力の向上につながればよい。	8	47%
⑤その他	2	12%



・知識以前に、授業の一つと思うのであれば参加しないほうがよい。
 ・意欲のある学生には企業で実習する価値があるが、無い学生にとっては時間の浪費である。吸収したい人は、実務で耳にするすべてが勉強になる。
 ・建築を学びだして数ヶ月の学生(1年生)に対して、設計実習をするのは無理がある。2年生の知識をもって履修してもらいたい。

(2) 実習の障害となるのはどんなことだと思いますか。
(複数回答可)

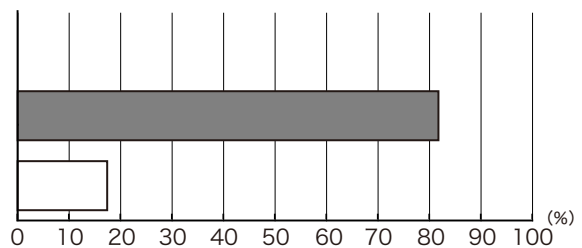
項目	人数	割合
①設計に関する知識の不足	5	29%
②設計に必要な技能の不足	2	12%
③安全に対する知識の不足	1	6%
④守秘義務に関する意識の希薄さ	5	29%
⑤礼儀や挨拶等の基本的な社会生活上のマナーの欠如	9	53%
⑥ルールを守る規範意識の欠如	3	18%
⑦実習への活動意欲の低さ	11	65%
⑧積極的に学ぼうとする能動性の低さ	8	47%
⑨コミュニケーション能力の低さ	7	41%
⑩職場に馴染もうとする協調性の低さ	2	12%
⑪他者への思いやりの心の低さ	3	18%
⑫その他	1	6%



・学生なので知識・技能の不足は当然あるが、弊社の場合、短期実習なので学校ではできない体験をしてもらいたいと考えている。

(3) 実習中に問題となることがありましたか。(1つ選択)

項目	人数	割合
①なかった。	14	82%
②あった。それは、どんなことですか。	3	18%

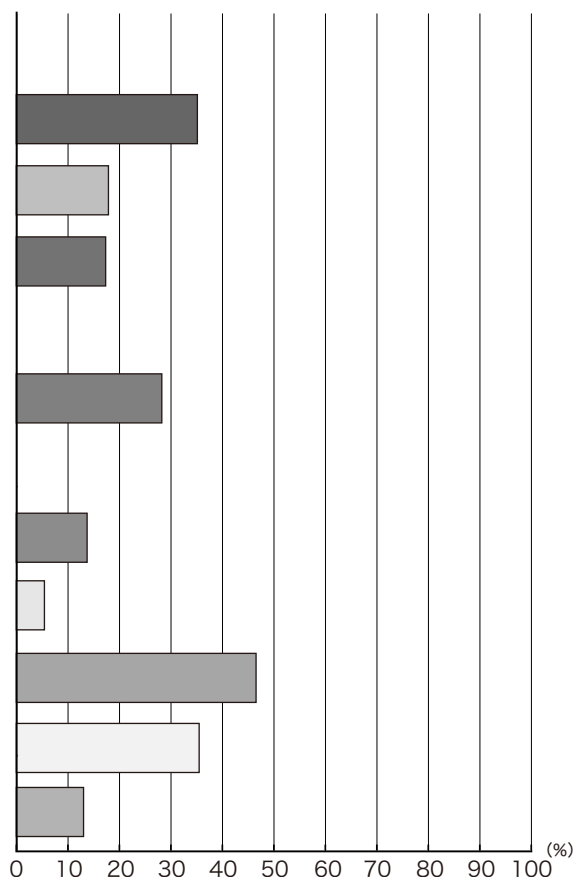


・遅刻、無断欠席。同一人物であったが、マナー、意欲を疑う。
 ・作業の途中でも時間になったら仕事をやめて帰宅する。(今は普通かもしれないが)
 ・与えた課題、仕事に集中できず、外出したがる。本人が許可を求めたので認めたが、取組姿勢としてはどうかと思う。

3 企業内実習の意義について

(1) 学生たちが、この実習で得た最も重要なものは何だと思われますか。(2つ選択)

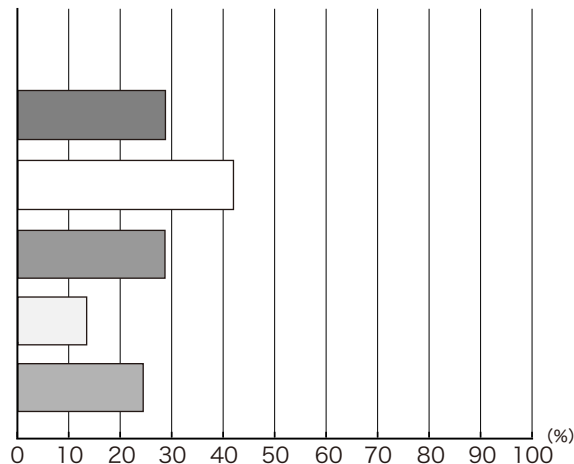
項目	人数	割合
①建設や職種に関する知識・技能	6	35%
②現場の仕事の大まかな流れ	3	18%
③現場の雰囲気	3	18%
④自分の技術力のなさを実感したこと	0	0%
⑤自分の志望と現実の職場とのギャップ	5	29%
⑥安全に関する知識や態度	0	0%
⑦社会生活上のマナーや規範意識	2	12%
⑧協力することの大切さや他人とのネットワークの必要性	1	6%
⑨働く人たちの仕事に対する考え方・姿勢	8	47%
⑩座学(授業)と社会(現場)の違い	6	35%
⑪その他	2	12%



・就職先を考える一助となってほしい。
 ・ここ数年、3D-CADの実習をしている。図面が完成すると実際にその建物を見学してらうが、図面と現実の空間の違いを体験してもらいたいと考えている。

(2) 実習受入企業にとって、どのような意義がありましたか。(複数回答可)

項目	人数	割合
①少しは仕事の役に立った。	5	29%
②若い学生が実習に来たことにより、職場の雰囲気がにぎやかになった。	7	41%
③若い職員に学生を指導させたため、その職員の勉強になった。	5	29%
④企業にとって、直接的なメリットはなかった。	2	12%
⑤その他	4	24%

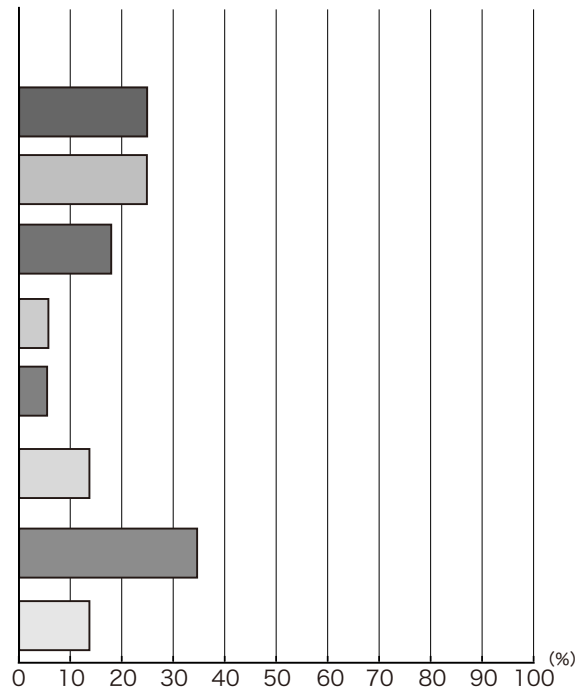


- ・若い学生が実習に来たことにより、今の学生の雰囲気や意識が分かった。
- ・学生がどのような気持ちで設計をしようとしているか確認できた。
- ・建物の事が理解しやすいように毎年、模型製作を主に行っている。完成した模型を施主様にお見せすると、分かりやすいと、とても喜ばれている。
- ・実習により、設計業務に対する興味をさらに大きくしてもらえるのであれば、これ以上の意義はない。

4 企業内実習全体を振り返って

(1) 実習受入企業にとって、どんなことが大変だったですか。(複数回答可)

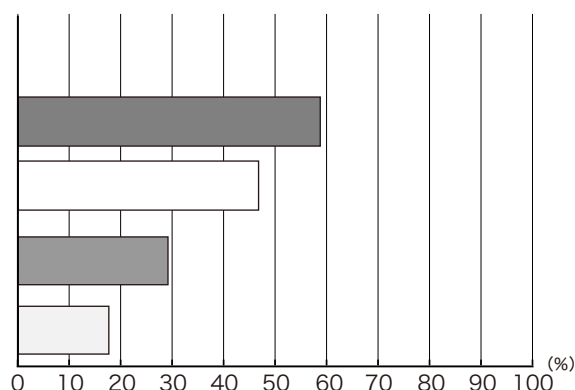
項目	人数	割合
①学生に行わせるプログラム作りが大変だった。	4	24%
②仕事が忙しくて、学生を指導する職員がいなくて困った。	4	24%
③学生が消極的で一つ一つ指示しないと動かないので困った。	3	18%
④学生の安全面の配慮で、大変に気がつかった。	1	6%
⑤仕事が忙しく、毎日、日報に目を通すのが大変だった。	1	6%
⑥学生の評価を依頼されたが、ずっと観察していないので評価することが難しかった。	2	12%
⑦特に、大変なことはなかった。	6	35%
⑧その他	2	12%



- ・出来る限り、気にかけるようにしていたが、付きっきりにはなれなかった。
- ・学生の知識と技能を鑑みたプログラム作りが大変だった。

(2) 特に企業として、ご配慮いただいたことは、どんなことですか。(複数回答可)

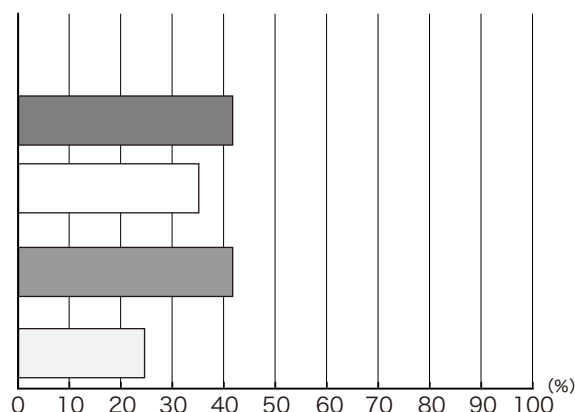
項目	人数	割合
①設計事務所の仕事に興味を持たせるため、実習プログラムを工夫した。	10	59%
②現場の実際の様子を体験させるため、職員の一員として仕事に取り組みさせた。	8	47%
③職場に馴染ませるため、若い職員を指導係にした。	5	29%
④その他	3	18%



- ・実習の3D-CADで描く図面は、実際に竣工した建物なので、その所有者にインターンシップの学生の見学を了解してもらうための調整を行っている。
- ・可能な限り、パイト的な仕事を避けた。
- ・学校で使用しているCADがJWでないため、JWを知っておくのは、どの事務書に就職しても無駄にならないことから、練習日を設けた。
- ・トレス程度の図面があったので、実際にやらせてみた。
- ・実務に即した実習内容とするため、仮想の敷地に住宅を企画、CADによる基本図面の作図、模型作成までを10日間で仕上げるカリキュラムで指導を行っている。

(3) どのような考えのもと、実習を受け入れていただいたか、お聞かせください。(複数回答可)

項目	人数	割合
①社会が求めている即戦力の育成に貢献するため、実習を受け入れた。	7	41%
②地元の建設業で働く人材を確保するため、実習を受け入れた。	6	35%
③学生に現場の実際を体験させ、早期退職等のミスマッチを防ぐことに尽力するため、実習を受け入れた。	7	41%
④その他	4	24%



- ・学生には、設計事務所の雰囲気を感じ取ってもらい、将来、実務に携わる際の手助けになればという思いで実習を受け入れている。
- ・若い職員の指導力の育成や、自分の所在地の認識のため、また、学生世代の考え方や態度、キャラクターなどを把握するために、受け入れている。
- ・意欲的にインターンシップを行おうとする将来性のある学生の一助となればと、受け入れている。
- ・建築設計業界では、デザインビルドやゼネコンの設計施工一貫方式、あるいはPFIなどにより、ますます疲弊する傾向にある。少しでも設計を通して建物を創る喜びを味わい、設計に魅力を感じてもらえる次世代の建築家の出現を期待して受け入れている。

アンケート結果(企業:設計)

- (1) 学校が事前の準備・打ち合わせ等の学校が事前に準備しておく必要があるものについての問いに対して、「学生の自宅住所や連絡先を書いた名簿」・「学生の仕事や将来に関する考え方を書いた作文」がともに、71%であった。
- (2) 学校が事前に指導する必要があることについての問いに対して、「守秘義務に関する知識と注意事項」100%、「安全に関する知識と注意事項」71%であった。
- (3) 学校と事前に打ち合わせておく必要があるものについての問いに対して、「学生が怪我、病気になったときの対応方法」82%、「学生の学校での様子、個性など」29%であった。
- (4) 建設の知識の必要性についての問いに対して、「実習で行うことと、学校で学ぶことは、直接、結びつかなくても、将来の全般的な資質・能力の向上につながればよい。」47%、「基本的なことが理解できていれば、実習で行う内容を学校で学んでいなくてもよい。」29%であった。
- (5) 企業内実習の障害についての問いに対して、「実習への活動意欲の低さ」65%、「礼儀や挨拶等の基本的な社会生活上のマナーの欠如」53%、「積極的に学ぼうとする能動性の低さ」47%、「コミュニケーション能力の低さ」41%であった。
- (6) 学生に習得してほしいものについての問いに対して、「働く人たちの仕事に対する考え方・姿勢」47%、「設計や職種に関する知識・技能」・「座学(授業)と社会(現場)の違い」がともに35%であった。
- (7) 受入企業にとっての意義の問いに対して、「若い学生が実習に来たことにより、職場の雰囲気は賑やかになった。」41%、「少しは仕事の役に立った。」・「若い職員に学生を指導させたため、その職員の勉強になった。」がともに29%であった。
- (8) 大変なことについての問いに対して、「特に、大変なことはなかった。」35%、「学生に行わせるプログラム作りが大変だった。」・「仕事が忙しくて、学生を指導する職員がいなくて困った。」がともに24%であった。
- (9) 配慮したことについての問いに対して、「設計事務所の仕事に興味を持たせるため、実習プログラムを工夫した。」59%、「現場の実際の様子を体験させるため、職員の一員として仕事に取り組みさせた。」47%であった。
- (10) 企業内実習を受け入れたことについての問いに対して、「社会が求めている即戦力の育成に貢献するため、実習を受け入れた。」・「学生に現場の実際を体験させ、早期退職等のミスマッチを防ぐことに尽力するため、実習を受け入れた。」がともに、41%であった。

【まとめ】

企業内実習を実施するには、事前の準備・指導が重要であることがこのアンケート結果から分かる。また、学生に求めることについては、知識よりも学ぶ意欲や姿勢、コミュニケーションといった向上心を持って企業内実習に取り組んでほしいとの考えをもっていることが見えた。

企業内実習を受け入れる企業は、職場が賑やかになったことや職員の勉強になったという企業単体としての意義はあるものの、根本的には社会貢献として業界全体のことを考えて企業内実習を受け入れていることが分かる結果となった。
